

Flash Eyes

観戦ガイド1月15日号

天皇杯・皇后杯

2021年

全日本卓球選手権大会

(一般・ジュニアの部)

【無観客大会】

2021年1月11日(月)

～1月17日(日)



1月15日の予定

■シングルス 4～6回戦

競技日程

● [第6日] 1月16日(土)

■男子シングルス 準々決勝

■女子シングルス 準々決勝

● [第7日] 1月17日(日)

■男子シングルス 準決勝～決勝

■女子シングルス 準決勝～決勝

【無観客大会】

会場へは来場いただけません。
試合・結果はWEBをご覧ください。
土・日はNHKの中継もあります。

◆ ライブ配信・試合速報

試合のライブ配信・結果速報は、大会特設サイトをご覧ください。下記アドレスでご確認ください。さあ、今すぐアクセス！

●全日本選手権特設サイト

<http://www.japantabletennis.com/zennihon2021/>

◆ NHK中継

1月16日(土)

女子シングルス 準々決勝

男子シングルス 準々決勝

1月17日(日)

女子シングルス 準決勝・決勝

男子シングルス 準決勝・決勝

全日本 悲願成就

1月14日、2021年全日本卓球選手権大会4日目が行われた。

ジュニア男子は愛工大名電勢が表彰台を独占。5回戦から同士討ち4連戦を勝ち抜いた濱田一輝が歓喜の初優勝。ジュニア女子は質の高いサーブレシーブでラリーの主導権を握った大藤沙月が悲願の連覇。ジュニア女子の連覇は石川佳純以来11年ぶり。

本日15日はいよいよシングルスのスーパースeed勢が登場。1日3試合という過酷な戦いを勝ち抜き、ベスト8に名を刻むのは…？

濱田 初戴冠 大藤 2連覇



濱田 一輝

大藤 沙月

ジュニア男子決勝

濱田一輝 3

(11-5
9-11
11-7
11-9)

1 鈴木 颯



濱田一輝選手

コロナ禍のなかで開催されるか不安でしたが、開催していただいて感謝の気持ちでいっぱいです。いろんな人に支えられて試合ができたことに感謝したいです。インターハイがなくなって次の目標は全日本ジュニアということだっ前から優勝を目標にしてやってきました。まだ優勝の実感はないです。同士討ちでいつも練習してお互いの手の内は知り尽くしているので、作戦をよく考えて自分から攻めることを意識してやりました。一般での目標は張本君のところまで行ってそこで結果を出したいです。

ジュニア女子決勝

大藤沙月 3

(11-9
11-7
11-9)

0 横井咲桜



大藤沙月選手

今年は2連覇を目指していて、それを達成することができて本当に良かったと思います。みんな強い選手ばかりなので、プレッシャーはあまり感じず、全部向かっていく気持ちでやれて良かったと思います。今まで連覇してきた石川佳純さんや福原愛さんは世界で活躍しているので、自分もそれに続いて世界で活躍できるように頑張ります。木原選手や小塩選手など強い選手が早い段階で負けている中で、自分は負けずに勝ち進めたのがよかったかなと思います。今年は一般でランク以上を目指してやってきたので、それを明日発揮したいです。

1/14 PHOTO トピックス



■ 35歳の初挑戦

35歳にして男子シングルスに初出場の岩城禎。13歳の松島輝空との一戦は数多くのメディアが注目。

「今までは全日本に出るのを目標にしていたが、来年以降は出たうえで1勝するのを目標にしたい」と話す遅咲きの男の挑戦はまだまだこれからだ。



■ 感謝の引退

今大会での引退を表明している土田美佳は「私一人だけでは今日までコートに立ってやってこれませんでした。周りの方に恵まれて助けてもらったので、感謝の気持ちでいっぱいです」と周囲への感謝を胸に競技人生の幕を閉じた。

今後は所属する中国電力の応援とサポートをしていければ、と語った。

シングルス4回戦出場の前日、昨年チャンピオンの女子・早田ひな選手、男子・宇田幸矢選手、2年ぶり3度目の優勝を狙う伊藤美誠選手に今大会の抱負を語っていただいた。

早田ひな選手

このような大変な状況の中開催していただいたスタッフの皆さんや大会関係者の皆様に本当に感謝しています。たくさんの試合がなくなった中で、この全日本に向けてしっかり準備してきたので、練習してきたことを出せたらいいなと思います。

前半の半年間は練習の毎日で、Tリーグが開幕してからは試合をしながら技術面や改善点を修正し、試合の中でも強くなれました。試合勘は悪くはなかったので、すぐリラックスした状態で、攻めるところは攻めるといった攻守のバランスもうまくなってきたと思います。

この1年はトレーニングに取り組む期間が多かったので、一から体を見つめなおして強くなるために何が必要なのかを意識していました。

技術の面では、攻撃的な両ハンドにつなげるためのサーブレシーブや戦術を練習してきました。

去年優勝したことに対してはプレッシャーは何も感じていなくて、試合をするのが楽しみです。一試合一試合楽しむことができたらいいなと思います。



宇田幸矢選手

去年優勝することができて、今年は気持ちを新たに取組んできました。この大会はディフェンディングチャンピオンですが、優勝に向かって挑戦する気持ちで戦おうと思っています。

今大会のプレッシャーは想像よりは少なく、一戦一戦積み重ねて優勝できたらいいなと考えています。

去年の全日本で優勝した後に、腰のけがで半年ぐらい練習することができず休んでいて体が衰えていたので、今年に向けてフィジカル面を鍛えてきました。

コロナ禍の試合なので注意することはたくさんありますが、その中で試合ができることに感謝して優勝を目指して頑張りたいです。

今大会で意識している選手は、去年決勝で当たっている張本選手、同じ大学の戸上選手、オリンピック代表の丹羽選手が強敵だと思います。

伊藤美誠選手

試合がすごく楽しみで、早く試合したいなとワクワクが止まりません。たくさん練習してきて自信があるし、練習自体も楽しんでやってこれたので早く試合をしたいですし、練習してきたことや自分の実力を出し切りたいです。

サーブレシーブが一番得意なので強化してきました。それに加えて、中国人選手にラリーで負けることが多かったのが、サーブレシーブで決まらなかったときのラリー力を強化して、ラリーに持っていかれても大丈夫だよという自信をつけてきました。日本人選手にも通じる部分があると思うので、私らしいプレーをしつつ、やってきたことを出し切れたらいいかなと思います。



1/15 見どころ

男子

選手No.1-31 宇田・町ブロック



第一シード宇田幸矢にジュニアベスト16の鈴木笙(写真)が挑む。連覇を目指す宇田の今大会初戦に注目。

選手No.32-62 松山・吉村ブロック



単身スウェーデンリーグで修行を重ね、昨夏からTリーグにも参戦して活躍する英田理志(写真)が台風の目となるか。

選手No.63-93 丹羽・吉田ブロック



丹羽孝希、吉田海偉といった全日本優勝経験者がしのぎを削る。ジュニア8強の谷垣佑真(写真)は勢いに乗れるか。

選手No.94-124 曾根・戸上ブロック



ノーシードから勝ち上がってきた上田仁(写真)。田添健汰とのTリーガー対決は4回戦屈指の好カード。

選手No.125-155 吉田・大島ブロック



強豪ひしめく激戦区を1回戦から勝ち上がってきた松平健太(写真)と吉田雅己の青森山田対決に注目。

選手No.156-186 龍崎・神ブロック



確かな実力で4回戦に駒を進めた木造勇人(写真)は龍崎東寅と激突。大学生対決を制してシード奪還なるか。

選手No.187-217 吉村・及川ブロック



元王者・吉村真晴、昨年ダブルス王者・及川瑞基ら実力派が揃うブロック。3回戦で松島輝空に完勝した岡野俊介(写真)は村松雄斗と対戦。

選手No.218-248 横谷・張本ブロック



王座奪回に燃える張本智和の初戦に注目。ジュニアを制した濱田一輝(写真)と張本の対決は実現すれば注目必須。

女子

選手No.1-31 早田・田中ブロック



今大会のジュニア女子で2連覇を達成した大藤沙月(写真)が勝ち進むと、6回戦で前回王者の早田ひなと対戦する。ジュニア女王の実力は、昨年チャンピオンに太刀打ちできるか！？

選手No.32-61 森・佐藤ブロック



2度のゲームオールを制して勝ち上がってきた馬場麻裕(写真)が6年連続ベスト8以上と安定感のあるカットマン佐藤瞳に挑む。すでに2回戦でカットマンを破った馬場がそのまま勢いに乗れるか。

選手No.62-92 芝田・加藤ブロック



元全国高校総体覇者の出雲美空(写真)が加藤美優に挑戦する。その他世界ジュニアチャンピオンの長崎美柚、4年連続ランクの芝田沙季と実力者揃い。この激戦ブロックを抜けるのは…？

選手No.93-123 安藤・伊藤ブロック



王座奪回を狙う伊藤美誠と、伊藤と同じ静岡県生まれで元大学生チャンピオンの森田彩音(写真)が対決する。運命を占う大事な一戦に注目。

選手No.124-154 橋本・加藤ブロック



2018年全国社会人王者の平侑里香(写真)が昨年3位のカットマン橋本帆乃香に挑む。平真由香との姉妹対決は実現なるか。

選手No.155-185 庄司・木原ブロック



ジュニア女子でまさかの初戦敗退を喫した木原美悠(写真)がシングルスで巻き返しを図る。順当に勝ち上がれば6回戦で振り返きを狙う平野美宇と対戦する。

選手No.186-216 小塩・出澤ブロック



昨年の女子シングルスでは2度目の出場にしてベスト8入りを果たした中学3年生・小塩遥菜(写真)が今年も上位進出を狙う。2年連続ランク入りの高校生・出澤杏佳の独創的なプレーにも注目。

選手No.217-247 前田・石川ブロック



危なげなく駒を進めてきた鈴木李茄(写真)が女子最多14年連続ランク入りの石川佳純と戦う。石川のランク入りは記録更新となるか…？